

須賀川市立小中一貫教育校「稲田学園」令和2年度学園だより

とう りん 稲 雲

第5号

令和2年5月28日発行

発行者：校長 小貴 崇明



○合言葉は、「**ディスタンス!**」(distance)

～大切に思うからこそ、今は離れよう～



5月14日に国の緊急事態宣言が解除され、6月からの全面的な教育活動の再開を目指し、18日(月)からの2週間で段階的に教育活動を再開してまいりました。

本校では、文部科学省が示した「学校の新しい生活様式」を参考に、この2週間で授業や休み時間、給食や清掃などのさまざまな活動において、課題となる子どもたちの生活行動を確認してみました。

(上の写真：9年生の給食準備風景。さすが9年生は手際よく配膳し、ディスタンスもとっています。)

まず、「毎朝の検温」と「マスクの着用」については、ご家庭のご協力もあり徹底されております。また、「教室の換気」や「手洗い」、「給食時の準備や食べ方」については、教師が気をつけてその場での指導を徹底しており、こちらもしっかりできています。

気をつけたいのが、「ソーシャル・ディスタンス」です。休み時間や授業中に、教師が注意しないと、子どもたちが「密集」してしまうことがあります。例えば、本校の水飲み場やメディアセンターなど、子どもたちが集まる場所には、右の写真のような表示を床に貼って距離をおいて並ぶよう指導しています。しかし、待っている間に仲の良い友だちと至近距離で話したり、中には肩を組んでしまったりすることもあります。感染リスクを考え、子どもたちが密集している場合、特に英語を学んでいる子どもたちには「ディスタンス!」と声をかけることにより、自然に子どもたちが散らばって距離をとるよう体育の授業等でも指導しています。距離をとることは、自分自身と友だちの命を大切にするためであることを徹底していきたいと考えています。(右の写真：並んで手を洗う1年生)



○学習内容の遅れを取り戻す～緊急事態宣言解除後の課題①～



5月18日(月)から、長期の臨時休業の影響をふまえながら教科の授業を進めています。今後、市教委により夏季休業や冬季休業中に授業日が設定されることとなりますが、増やされる登校日を含めた授業総日数の中で、履修できなかった内容をカバーする指導を計画的に進めるとともに、特に高校入試に係る9年生への進路指導や、精神的に不安定な子どもの心に寄り添うカウンセリングなどによる支援にも十分に配慮してまいります。

(写真上：7年生の理科の授業。ソーシャルディスタンスをしっかりとっています。)

○部活動の今後について～緊急事態宣言解除後の課題②～



6月1日（月）から、7年生以上の部活動を再開いたします。再開の手順については、以下のように予定をしています。子どもたちにとっては待ちに待った活動かと思いますが、「学校の新しい生活様式」を徹底しながら、安全・安心を最優先に進めて参ります。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（写真は音楽部の登校日での活動。距離をとりながらの練習です。）

- ① 6月1日（月）～6月5日（金）は、1時間程度の活動（下校17：20）
- ② 6月8日（月）からは、準備等も含め2時間の活動（下校18：30）
- ③ 平日は、原則として毎週水曜日を休みにします。
- ④ 土曜・日曜・休日の活動は、当面の間実施しません。
- ⑤ 感染症対策として、リスクの低い活動から徐々に実施していくよう考慮します。
- ⑥ 十分な身体的距離を確保しながら、活動させます。
- ⑦ 可能な限り屋外や広い室内で活動し、こまめな換気・消毒、活動前後の手洗いを行います。
- ⑧ 発熱等の症状がある場合は、活動参加を見合わせ自宅で休養するよう指示します。
- ⑨ 今後の各種大会開催の有無、9年生の引退等については、決まり次第お知らせしてまいります。



○学校行事の延期等について～緊急事態宣言解除後の課題③～

緊急事態宣言が解除されたといっても、油断は禁物です。6月1日（月）から本格的に学校が始まるとはいえ、感染症対策をしてもなお感染のリスクが高い行事等については、今後も延期や中止を判断しながら、教育活動を進めて参ります。6月の主な行事については以下のとおりです。詳細については、学校からの通知や学年通信等でご確認ください。

- ・6月4日、5日 ムシテックワールドでの校外学習（3年、5年）・・・中止
- ・6月10日～11日 6年修学旅行（東京方面）・・・・・・・・・・・・・・延期
- ・6月18日～19日 4・5年宿泊学習（いわき海浜自然の家）・・・・・・・・・・延期

★ことばのちから(5) 「たかが一食、されど一食」

数年前、テレビで紹介された小学校の栄養教諭の言葉です。その先生は、「給食甲子園」という大会で全国1位になった人で、給食の味や栄養バランスはもちろん、季節感や地域の風習を大切に、地域生産者と子どもの交流を企画するなど、「食育」に一生懸命取り組んでいました。給食は子どもたちが毎日食べる三食の内の一食かもしれませんが、一食にかけるこの先生の強い思いが、この言葉に凝縮されています。久しぶりに食べる給食をおいしそうにほおばる稲田の子どもたちを見て、「給食を作る人への感謝」や「他の二食はしっかり食べてるのかな？」など、様々なことを考える今日この頃です。

